

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 150-0002

所在地 東京都渋谷区渋谷3-8-12渋谷第一生命ビルディング7階

評価機関名 株式会社プレパレーション

認証評価機関番号 機構 20 — 253
電話番号 03-6427-7451
代表者氏名 岡 知己

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	鈴木可津也	経営	H2201069
	②	古畑朋子	福祉	H2301054
	③	井口淳	経営	H2301023
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			指定番号を入力してください
評価対象事業所名称	世田谷区立砧南小新BOP学童クラブ			
事業所連絡先	〒	157-0077		
	所在地	東京都世田谷区鎌田3-4-1		
	Tel	03-3417-3789		
事業所代表者氏名	酒井教行			
契約日	2024 年 5 月 9 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2024 年 9 月 5 日			
利用者調査結果報告日	2024 年 9 月 20 日			
自己評価の調査票配付日	2024 年 9 月 5 日			
自己評価結果報告日	2024 年 9 月 20 日			
訪問調査日	2024 年 10 月 23 日			
評価合議日	年 月 日		評価合議日を入力してください。	
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	施設を現在利用している全世帯の利用者本人・保護者を対象とした利用者調査をおこないました。施設から利用者調査案内を配布し、紙面にておこない回答して本評価機関へ返送形式にしました。職員へのアンケートも紙面にておこない、鍵付きBOXへ提出してもらったのち、本評価機関に郵送にて回収しました。訪問調査当日は、施設内の見学をしたあと、経営層に質問しながら、書類の閲覧をして状況把握に努めました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- ☒ 機構が定める部分を公表することに同意します。
☐ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
☐ 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名

印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 1)命を守られ成長できること 2)子どもにとって最もよいこと 3)意見を表明し参加できること 4)差別のないこと 5)居場所であること
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	（1）職員に求めている人材像や役割 ・公務員として平等・誠実であること ・地域の安全と子の健やかな成長を支援する ・子どもの傍に立ち横の関係性で受け止める ・保護者に対しては、よき理解者となり仕事と家庭の大変さを十二分に受け止めて一緒に子育てをする関係を作っていく （2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） こどもと信頼関係を持ち楽しく遊び、笑い、時を共有し、ケンカになれば気持ちを共有し受け止め、落ち込んだり悲しんでいるときは良いところを伝えて支えてあげ、子のことを理解し、心通わせ、居場所として認めてもらえる人。

調査対象

対象施設の登録児童数を調査対象とし、アンケートにて調査をおこなった。83世帯より回答を得た。回答は対象児童もしくは保護者が利用者の様子を推察し、回答を依頼した。

調査方法

アンケート方式
紙面のアンケートを施設より配布、施設内回収BOX及び返信用封筒にて本機関へ返送してもらう方法で実施。

利用者総数

262

共通評価項目による調査対象者数

アンケート	聞き取り	計
262	0	262
83	0	83
31.7	0.0	31.7

共通評価項目による調査の有効回答者数

利用者総数に対する回答者割合(%)

利用者調査全体のコメント

総合評価は、「大変満足」が72.3%、「満足」は16.9%、「どちらともいえない」が6.0%、「不満・大変不満」は3.6%、「無回答」が1.2%という結果となり、「大変満足・満足」を合わせて89.2%と大変高い評価を得ています。自由記述では「学童はとても楽しいです。」「現在まで楽しく過ごせて残りの時間を大切にしたいと思います。」「ドッジボールやサッカーが出来るから楽しいです。」「今のままで満足しています。」「先生いつも優しくしてくれてありがとうございます。」「学童のおかげで毎日学校に行けています。とても楽しい場のようで、毎日よく見て頂き先生方には大変感謝しております。」という感謝の声が多数寄せられていました。そのほか、玩具や遊びの種類、イベントが増えると嬉しい、こども同士のトラブルへ適切に対応してくれると安心する、静かに過ごせる部屋があると嬉しいなどという意見が寄せられていました。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	70	6	2	5
この項目では「はい」の回答が84.3%、「どちらともいえない」は7.3%、「いいえ」が2.4%、「無回答・非該当」は6.0%という結果となり、高い評価を得ています。自由記述では「カードゲームが楽しい」というコメントのほか、楽しく過ごせる工夫があると嬉しいという意見が寄せられていました。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	53	19	4	7
この項目では「はい」の回答が63.9%、「どちらともいえない」は22.9%、「いいえ」が4.8%、「無回答・非該当」は8.4%という結果となりました。自由記述では話しやすい雰囲気だと助かるという意見が寄せられていました。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	67	11	4	1
この項目では「はい」の回答が80.7%、「どちらともいえない」は13.3%、「いいえ」が4.8%、「無回答・非該当」は1.2%という結果となり、高い評価を得ています。自由記述では、おやつ内容の改善や増量、友だちと食べられると嬉しいという意見が寄せられていました。				

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	38	22	2	21
この項目では「はい」の回答が45.8%、「どちらともいえない」は26.5%、「いいえ」が2.4%、「無回答・非該当」は25.3%という結果となりました。自由記述では、意見が取り入れられると嬉しいという意見が寄せられていました。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	59	11	2	11
この項目では「はい」の回答が71.0%、「どちらともいえない」は13.3%、「いいえ」が2.4%、「無回答・非該当」は13.3%という結果となりました。自由記述では、説明があると安心するという意見が寄せられていました。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	42	25	10	6
この項目では「はい」の回答が50.6%、「どちらともいえない」は30.1%、「いいえ」が12.0%、「無回答・非該当」は7.3%という結果となりました。自由記述では、「自分達で使った物は自分たちで片づけています。」「先生に玩具片づけてね、とか言われているところを見かけることが多い。」というコメントのほか、片付いている時と片付いていない時がありますという意見が寄せられていました。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	64	10	4	5
この項目では「はい」の回答が77.2%、「どちらともいえない」は12.0%、「いいえ」が4.8%、「無回答・非該当」は6.0%という結果となりました。自由記述では全職員が統一して適切に対応してくれると嬉しいという意見が寄せられていました。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	74	3	1	5
この項目では「はい」の回答が89.2%、「どちらともいえない」は3.6%、「いいえ」が1.2%、「無回答・非該当」は6.0%という結果となり、高い評価を得ています。自由記述では「皆優しい先生で安心しています。」「ふつうに優しいです。」というコメントがありました。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	65	7	3	8
この項目では「はい」の回答が78.4%、「どちらともいえない」は8.4%、「いいえ」が3.6%、「無回答・非該当」は9.6%という結果となりました。自由記述では「問題が起こらないです。」「そういう状況になったことがないので分かりません。」というコメントがありました。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	63	11	1	8
この項目では「はい」の回答が75.9%、「どちらともいえない」は13.3%、「いいえ」が1.2%、「無回答・非該当」は9.6%という結果となりました。この項目のコメントはありませんでした。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	50	11	1	21
この項目では「はい」の回答が60.2%、「どちらともいえない」は13.3%、「いいえ」が1.2%、「無回答・非該当」は25.3%という結果となりました。自由記述では「そう言う状況になったことがないので分かりません。」というコメントがありました。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	56	14	3	10
この項目では「はい」の回答が67.5%、「どちらともいえない」は16.9%、「いいえ」が3.6%、「無回答・非該当」は12.0%という結果となりました。自由記述では「そう言う状況になったことがないので分かりません。」というコメントのほか、気持ちに寄り添って対応してくれると嬉しいという意見が寄せられていました。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	26	12	10	35
この項目では「はい」の回答が31.3%、「どちらともいえない」は14.5%、「いいえ」が12.0%、「無回答・非該当」は42.2%という結果となりました。自由記述では「嫌な事や困ったことはないので分かりません。」というコメントがありました。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目		
1	カテゴリー1		
	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリー1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
			7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している		
	評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		
	評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○非該当
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している			
評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○非該当	
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当	
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当	
	カテゴリー1の講評		
理念や運営方針は掲示物や配布物、マニュアルを用いて職員と保護者へ周知しています 事業所の理念を職員に周知するため、事務所に理念を掲示しています。また、職員向けに世田谷区放課後健全育成事業の運営方針にもとづき、日々の業務が理念に沿うよう「レインボーファイル」を活用しています。このファイルには運営方針や安全マニュアル、ハザードマップなど、重要な情報を整理し、誰もが容易に確認できるよう工夫しています。保護者には、入会説明会や「にこぼんだより」を通じて、理念や利用方法を丁寧に説明し、職員と共に子育てを支え合う姿勢を共有しています。これにより、理念の浸透と信頼関係の構築を目指しています。 職員の責務や役割を定め方針を周知し、一体感をもって理念の実現に努めています 経営層は職員の責務や役割を、年度始めの会議で決定して事務分担表に明記しています。また、職員が方針を理解し、日々の業務に反映できるよう「レインボーファイル」を事務室に設置するほか、世田谷区放課後児童健全育成事業の運営方針をもとに、職員会議で定期的に運営指針を確認する機会を設けています。経営層は自らの役割と責任や職場倫理を「新BOP運営基準」に明記し、方向性を明確に示すことで、全員が一体となって理念の実現に向けて進むことができる環境を構築しています。 重要案件は会議で周知し、メールの配信やおたよりを配布し保護者にも共有しています 学童クラブの運営における重要な案件については世田谷区の児童課での決定事項は館長会や事務局長会で共有し、職員会議で職員に周知しています。現場に裁量権のある事に関しては職員会議で検討し、事務局長や児童館長の判断のもと決定しています。決定事項は、日誌に記録し、全職員が後から確認できるようにしています。さらに、保護者や利用者に対しては、「にこぼんだより」や保育業務支援アプリのメール機能などを通じて決定事項とその経緯を周知しています。欠席した職員に対しては、日誌や付箋メモを活用し、伝達を徹底しています。			

2	カテゴリー2		
	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
	サブカテゴリー1(2-1)		
	事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の 標準项目实施状況
			6／6
	評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		
	評点(○○○○○○)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当	
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当	
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当	
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当	
サブカテゴリー2(2-2)			
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準项目实施状況	
		5／5	
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している			
評点(○○○)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当	
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当	
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当	
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる			
評点(○○)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当	
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当	
カテゴリー2の講評			
利用者や職員の意見に加え、地域福祉の動向を汲み取り運営改善に反映しています 利用者の意向については、送迎時に保護者との積極的な対話や個別面談を通じて意見を吸い上げ、そのニーズを反映した運営改善に努めています。また、職員の意向については、定期的なミーティングで業務の進め方や役割分担について話し合い、時期ごとの反省をフィードバックしています。地域や福祉事業全体の動向についても、他の学童施設を見学し現状を把握したり、庁内の公開サイトから最新の情報を収集したり、事業所を取り巻く環境についての現状と課題を常に把握し、適切な対応を図っています。 世田谷区のビジョンにもとづく年間計画と資金計画を連動し実行力を高めています 中・長期計画の策定は、所管課が中心となって進めており、世田谷区全体のビジョンにもとづいた「世田谷区子ども計画(第2期)後期計画」を策定しています。単年度計画については、毎年の振り返りや評価を経て、その年度に実施すべき具体的な取り組みが盛り込まれた新BOP年間計画を策定しています。所管課による予算編成により、現場での実行力を高めるための資金計画を立てています。このプロセスを通じて、計画と予算が連動し、計画の実現性が担保されるよう取り組んでいます。 目標達成に向け定期的な進捗管理とニーズに応じた柔軟な対応をおこなっています 事業所の理念や目標を実現するために、児童課、児童館、そして個人ごとに目標シートを作成し、それぞれの目標達成に向けた取り組みを進めています。進捗確認については、行事ごとや夏休み期間などの重要なポイントで職員同士が反省会を実施し、その時点での達成度合いや改善点を話し合っています。さらに、区全体で情報を共有し、他施設との一貫性を保ちながら進捗を管理しています。こどもたちの状況や地域のニーズに応じて柔軟に対応し、年度末には計画全体の振り返りをおこない、次年度の計画策定に反映しています。			

カテゴリー3		
3	経営における社会的責任	
	サブカテゴリー1(3-1)	
	社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
	2／2	
	評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる	
	評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる
	○	非該当
	●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。
○	非該当	
サブカテゴリー2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	
4／4		
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	
○	非該当	
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	
○	非該当	
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	
○	非該当	
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	
○	非該当	

サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
		5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		
評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリー3の講評		
服務規程の整備や周知を徹底し、コンプライアンス遵守や虐待防止に取り組んでいます 毎年4月のロングミーティングで、職員の倫理や服務規程について確認し、基本的なルールを共有しています。また、法や規範の改訂時には迅速に情報を共有し、全職員に確認を徹底しています。さらに、職員同士が日常的に言動を振り返り、虐待防止に向けた研修や会議を定期的実施することで、適切な支援体制を整えています。万が一、虐待の疑いがある場合や事実を把握した際には、子ども家庭支援センターや児童相談所などの関係機関と連携し、適切に対応できるネットワークを構築しています。 区の苦情解決制度と第三者の審査体制を整備し、苦情解決に向け真摯に取り組んでいます 世田谷区のホームページを通じて苦情解決制度や相談先の情報を公開し、利用者が遠慮なくアクセスできる環境を整備しています。また、区民から寄せられた意見や要望は、区政運営の参考として活用されています。苦情や事故が発生した際には、保健福祉政策課がこれを取りまとめ、分析をおこなったうえで再発防止に向けた取り組みを実施しています。さらに、医師や弁護士などの外部委員で構成される保健福祉サービス苦情審査会が、第三者の立場から公正な審査をおこない、区長に意見が届く仕組みを整備しています。 ボランティアの受け入れや情報公開により地域と連携を図り、子育てを支えています 新BOPだよりやにこぼんだよりの配布やポスター掲示などを通じて、学童クラブでの日常の様子やイベント情報を保護者に開示し、地域に開かれた組織として活動しています。また、地域貢献の一環として、児童館を拠点に地域の中学校や実習生、ボランティアの受け入れ体制を整え、地域の方々との交流を促進しています。こうした取り組みにより、地域の福祉ニーズに応えながら、地域社会との強い連携を図り、地域全体で子育てを支える環境作りに貢献しています。		

4	カテゴリー4		
	リスクマネジメント		
	サブカテゴリー1(4-1)		
	リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
			5／5
	評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		
	評点(〇〇〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
	●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当	
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当	
サブカテゴリー2(4-2)			
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	
		4／4	
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			
評点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当	
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当	
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当	
カテゴリー4の講評			
定期訓練と感染症対策で安全対策を徹底しリスクマネジメントに努めています 「新BOP安全対策マニュアル」にもとづき、火災や地震に関しては定期的に避難訓練を実施し、不審者対応についても、職員やこどもたちに避難経路や役割を確認しています。また、感染症対策としては、流行時に消毒や手洗いの徹底を呼びかけ、室内換気も強化しています。重大な事故や感染症が発生した際には、その原因を分析し、再発防止策を職員全員で共有し、改善を図っています。さらに、保護者や関係機関に対しても、BOPだよりや年間計画を通じて情報を周知し、全員が安全対策を理解し、適切に対応できるように努めています。 事故報告書による原因究明と組織的な情報共有で安全体制を強化しています ヒヤリハットや事故報告書を活用して、日々の業務で発生するリスクを分析し、再発防止に努めています。こどものけがが発生した場合、原因を人的・環境的に分析し、同じ事態が繰り返されないよう職員間で情報を共有しています。また、児童課に報告し、保護者への対応や他の事業所への注意喚起もおこない、全体でリスクを共有する体制を構築しています。さらに、他の学童で発生した事故例や報道された事例を参考に、当事業所でも定期的に対応を検討しています。 個人情報の取り扱いは規則にもとづき適正に管理しセキュリティ対策を実施しています 情報の取り扱いに関しては、規程やルールを定め、職員が理解し遵守するよう徹底しています。個人情報の廃棄については、必要がなくなった書類をシュレッダーにかけるなど、適切に処理しています。収集した情報は、児童課が作成したファイリングシステムを用いて、書庫やパソコン内で整理・管理しています。さらに、パソコンはICカードや顔認証、パスワード入力によるセキュリティ対策を施し、データはクラウド上に保存して安全性を確保しています。また、個人情報保護法の趣旨にもとづき、利用目的の明示や開示請求に対応する体制を整えています。			

カテゴリー5		
5	職員と組織の能力向上	
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 12／12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○ 非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○ 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○ 非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○ 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○ 非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○ 非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○ 非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○ 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○ 非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○ 非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○ 非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○ 非該当

サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
		3／3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に 取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に 活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当
カテゴリー5の講評		
採用や配置、意向調査は児童課と児童館で連携を図り、職員の意欲向上に努めています 採用活動は児童課が担当し、人材確保が難しい状況の中でも派遣職員の導入などを工夫しています。また、児童館の館長が職員の意向や適性を把握するためのヒアリングを実施し、児童課が職歴や年齢、男女比を考慮して職員の配置や異動を決定しています。職員の定着や意欲向上にも注力しており、定期的なミーティングで職員の意見や要望を収集し、働きがいややりがいを感じられるよう現場に意見の反映をおこなっています。職場環境についても、職員間のコミュニケーションを促進し、相談しやすく風通しの良い職場づくりを目指しています。 キャリアパスの周知とキャリア年数に応じた研修計画で、職員の成長を支援しています 職員は公務員としてのキャリアパスを入職時に児童課から説明を受け、キャリア年数に応じた研修計画を策定しています。研修終了後は報告書の提出やミーティングを通じて学びを職員間で共有しています。研修内容は公務員倫理や個人情報管理、虐待防止研修などの全体課題に加え、伝承遊びや事例研究などの個別課題、上級救命技能認定研修など多岐にわたります。さらに、シフト表に研修日程を明記し、ミーティングで声かけをおこなうなど、参加しやすい環境を整えています。 ミーティングや日々の会話から気づきやお互いの意見を共有し、課題解決に努めています 日々の業務の中での気づきや工夫については、ミーティングを通じて報告し合い、サービスの質向上や業務改善につなげています。特にロングミーティングの場を活用し、重要な課題や意見を話し合い、チームでの合意形成を図っています。さらに、課題解決に向けてアンケートで意見を集約し、ミーティングで改善案を検討する仕組みも導入しています。このように、職員が意見を言いやすい環境を整え、目標の達成に向け信頼関係を構築し、課題に対して組織的に取り組めるよう努めています。		

カテゴリー7	
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 2023年度は学校・地域・家庭との連携を深め、こどもたちに安心・安全な遊び場を提供すること、自立心と他者を思いやる心の育成、異年齢交流を通じた社会性や協調性の向上を課題としています。課題抽出の背景には、利用者数が多く遊びスペースが限られているという状況があります。そのため、学校と協力して利用可能な教室を調整し、担任との情報共有を通じて、静かに遊びたいこどもなど、気になるこどもへの環境整備を強化しています。7月に1年生の保護者と個別面談をおこない、学校や学童での様子、初めての学童の夏休みに向けた話をしています。加えて7月にぼんぼこフェスティバルの開催や、3月には進級お祝い会を開き、ダンス発表などを通じてこども同士の交流を促しています。これらの取り組みを通じて、安全・安心な環境は確保していますが、日常の遊びや行事の内容の充実、多様な体験の提供には課題が残っています。2023年度と変わらない内容に留まらないよう、メンバー全員で話し合いながら取り組みの改善を図り、こどもたちにより豊かな体験を提供できるよう努めています。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 学校や地域、家庭との連携を通じてこどもたちに安心・安全な遊び場の提供を目指し、異年齢交流や自立心の育成を重要課題として設定しています。2023年度の取り組みでは個別面談や手作りの行事を計画的に実施し、ミサンガやランプシェードの制作やイベントでのスタンプラリーの活動をおこなっています。これにより、こどもたちが安心・安全に過ごせる環境づくりや保護者との信頼関係を構築しており、異年齢との交流も生まれています。しかし、スペースの問題で多様な体験の提供が十分に実現できなかった点は今後の改善の余地があります。限られた資源を有効活用し、活動の幅を広げるためには、さらなる創意工夫や地域資源の活用、外部協力者との連携を検討しています。今後に向け学童の教育環境が統合的に機能するため、体育館の開放など学校との協力体制の展開に期待します。	

評価項目2 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 事業所は、限られたスペースと職員数の中で学童クラブを運営する上で、こどもたちに安全で安心な遊び場の提供と職員の指導體制の強化を目標としています。2023年度はスペースの狭隘化という課題に対応するため、学童クラブの施設内での効率的な育成環境の確保を重視し、職員のシフト管理や役割分担の見直しを実施しました。具体的には、リーダー職や間食提供担当などの役割を明確にし、チーム内での連携強化に努めています。取り組みの結果、課題への意識を高めることや職員間の連携の重要性を再認識しましたが、実際の運営においては多忙な状況が改善の妨げとなっていることを確認しています。こうした振り返りをもとに、2024年度は職員一人ひとりの責任意識を高め、役割分担をさらに精査し安定した運営を目指すことを計画しています。また、地域全体のこども受け入れ状況も踏まえ、近隣保育園との連携や他施設の活用など外部リソースを最大限に活用する方向性も検討しています。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 事業所が抱えるスペース不足や職員数の制約という課題に対し、2023年度の改善活動として、限られたリソースの中で、学童クラブの運営が効率的におこなわれるよう、シフトや役割の見直しをおこない、リーダーや間食提供などの担当を明確化する取り組みを進めています。これにより、職員が各自の役割に責任を持ち、スムーズな連携と協力を通じて、安全・安心な保育環境の提供に努めていることが確認できます。一方で、職員の入れ替わりが続く中で、全体の運営をスムーズに進めること自体が大変な現状もあり、さらなる組織力の強化が求められます。この取り組みを通じて、職員一人ひとりの意識向上やチームワークの大切さを再認識し、事業所全体の士気を高めるよう努めています。今後は、現在の課題に対する振り返りをもとに、地域資源や外部機関と連携を図り、行政による民間学童クラブの誘致の展開に期待するとともに、協働する体制の強化に期待します。	

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4 / 4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している			
評点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○ 非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○ 非該当	
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している	○ 非該当	
●あり ○なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○ 非該当	
サブカテゴリー1の講評			
学童クラブの情報は、世田谷区公式ホームページや児童募集案内などで発信しています 学童クラブに関する情報は、世田谷区公式ホームページや児童募集案内などで発信をおこなっています。利用希望者は、ホームページにアクセスし、入会申し込み方法など、知りたい情報を得ることができます。また、新BOP学童クラブについての説明や概要なども記載しています。就学前の子どもや保護者には、小学校の就学前健診の際に、「新BOP学童クラブ児童募集案内」の配布や、見学の案内など、学童クラブの情報発信に取り組んでいます。そのほか、児童館にも新BOP学童クラブ児童募集案内を設置しています。 世田谷区公式ホームページでは、新BOP学童クラブに関する情報を詳細に載せています 世田谷区公式ホームページでは、新BOP学童クラブ児童募集案内や、学童クラブについての説明、入会受付期間や申請方法、新BOP学童クラブの概要説明、対象児童についての入会要件、申請方法などの情報を詳細に載せ、利用希望者に分かりやすく情報を提供しています。また、配慮を要するこどもの受入れについても記載し、こどもの特性に合わせた受け入れ体制があることを発信しています。そのほか、世田谷区の児童課とは、入会に関しての事務説明会で情報のやり取りをおこなっています。 見学の際は、一人ひとりが安心して楽しく過ごせる場であることを丁寧に説明しています 学童クラブの見学は、年間を通して随時おこなっており、電話や直接の来所でも受け付けをしています。また、小学校の就学前健診に来た保護者やこどもに見学ができることを伝えています。見学の案内は、平日は常勤職員、土曜日は、会計年度職員が対応をおこなっています。見学者には、在籍数が多く、遊ぶともだちも多数いることと、一人ひとりが安心して楽しく過ごせる場であることを、丁寧に説明しています。そのほか、配慮が必要とするこどもが見学する際は、受け入れ体制や、室内環境、配慮内容の相談をおこなっています。			

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	8/8
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(○○○)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○ 非該当	
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている	○ 非該当	
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○ 非該当	
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(○○○○○)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○ 非該当	
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○ 非該当	
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○ 非該当	
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている	○ 非該当	
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている	○ 非該当	
サブカテゴリー2の講評			
入会の際は、説明会を実施し、保護者が提出する書類でこどもの状況を把握しています 学童クラブに入会する際は、「学童クラブ入会にむけて」に沿ってDVDを活用し、保護者に説明をおこなっています。4月入会の説明会の際は、人数調整のため時間を分け説明しています。配慮が必要なこどもの保護者には、こどもの特性や配慮点を児童票に記入し、提出をお願いしています。また、アレルギーについては、アレルギー調査票で、こどもの状況を把握しています。小学校とは、必要に応じて擁護教諭とこどもに関する情報共有を図っています。クラブの利用者負担金については、新BOP学童クラブ児童募集案内に記載し、保護者の理解を得ています。 こどもの個別事情や要望を記録し、入会後はこどもに合わせた対応に取り組んでいます こどもに関する個別事情や要望は、入会申請書で聞き取りをおこなっています。児童票やアレルギー調査票を提出する保護者とは、個別面談をおこない、入所前の情報を把握、記録しています。また、保育園や関連機関と情報交換をする際は、保護者からの同意を得てから、必要に応じて連携を図っています。面談で得られた情報は、職員間で共有しています。入会直後は、こどもの特性を把握し、気持ちに寄り添い対応しています。新1年生は、環境に慣れるよう生活の流れを説明し、不安を感じているこどもには、親しくなるよう個別対応を心がけています。 特別な配慮が必要なこどもの支援をおこない、退会後は、ゆるやかな支援をしています 学童クラブでは、児童票の確認をおこない、必要に応じてこどもの保育園での様子を見学し、支援についての相談に取り組んでいます。また、特別な配慮を必要とするこどもを受け入れる際は、クールダウンできる環境を整え、好きな遊びを用意し、落ち着いて遊べるよう支援しています。4年生で退会する保護者には、BOP登録の声かけをおこない、4年生の夏休み期間中は、弁当持参で過ごせる自立に向けた「ゆるやかな支援」について説明しています。そのほか、3月に進級おめでとう会を開催し、退会するこどもにメッセージカードをプレゼントしています。			

サブカテゴリー3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 9/10
評価項目1 子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している 評点(○○○●)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
○あり ●なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	○非該当
評価項目2 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(○○○)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	○非該当
評価項目3 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(○○○)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当
サブカテゴリー3の講評		
年間の育成支援の目標は、全職員で話し合い、こどもの姿を捉え、作成しています 学童クラブでは、年間の育成支援の目標を立て、新BOP年間計画に盛り込んでいます。育成支援の目標は年度末に職員間で話し合い確認をおこなっています。また、こどもの状況変化や援助などについては、毎日のミーティングで共有し、状況に応じた対応の話し合いをしています。特別な配慮を必要とするこどもについては、児童票の提出と面談をおこない、情報共有を図っています。入会後に特別な配慮が必要と職員が感じた際は、保護者との相談の上、児童票の提出をおこなっています。 こどもに関する情報や支援内容については、ミーティングで話し合い記録しています 毎日のミーティングでは、こども同士のトラブルや気になる事項を、日誌に記載し、職員間で情報共有をおこない、対応方法についての話し合いに取り組んでいます。また、特別な配慮を必要とするこどもについては、児童票の記載内容の把握や、日々の様子を職員間で話し合い、気になることがある場合は日誌に記録しています。そのほか、年度末に育成記録の提出をおこなっています。 こどもに関しての情報は、ミーティングで周知を図り、全職員での共有に努めています 各ミーティングでの記録を、職員に周知し、共有を図っています。また、毎日のミーティングでは、児童や保護者の状況変化に関して、申し送りをおこない、共有に努めています。特別な配慮を必要とするこどもについては、専門機関による巡回での助言についての内容を、職員間で共有し、理解を深めています。そのほか、小学校の教諭とも情報を共有しています。		

サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5 / 5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)			
評価		標準項目	
☒ あり ☐ なし		1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし		2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	☐ 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)			
評価		標準項目	
☒ あり ☐ なし		1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし		2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし		3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	☐ 非該当
サブカテゴリー5の講評			
学童クラブでは、こどもの個人情報保護の徹底を図り、羞恥心にも配慮しています こどもの情報を外部とやり取りする際は、保護者に同意を得たうえで、情報提供をしています。また、特別な配慮を必要とするこどもの保護者には、児童票の提出や、関係機関との情報提供について同意を得ています。そのほか、こどもの個人情報に関しては、プレイングパートナーを含む全職員に、外部へ情報漏洩しないことを周知し、徹底を図っています。学童クラブ内で、排泄を失敗した際は、こどもの羞恥心に配慮して、同性介助をおこない、着替えの際は、周りに気がつかれない配慮をおこなっています。 職員は、こどもの気持ちを尊重した関わりを心がけ、信頼関係の構築に取り組んでいます 学童クラブの職員は、こどもの話にしっかりと耳を傾け、気軽に話せる信頼関係の構築に取り組んでいます。また、一人ひとりの気持ちを受け止め尊重した関わりを心がけています。職員は、こどもを尊重する関わり方をミーティングで話し合い、より良い援助につなげています。さらに、こどもが意見を言いやすい雰囲気づくりのために、こども一人ひとりと丁寧に関わっています。そのほか、外国籍の保護者とは、宗教上の食事制限を厳守し、身体の体質や健康に関する認識の違い、国の子育ての価値観の違いを尊重するように努めています。 職員は、こども同士の問題について話し合い、解決に向かって取り組んでいます 学童クラブの職員は、こども同士の暴力やいじめなどの予防、再発防止のために、集団での関わり方や、国籍の違い、年齢による身体的な違い、人権などに留意しながら見守る姿勢で対応に取り組んでいます。また、こどもの様子や状況変化があった際は、ミーティングで、解決に向けての対策や予防について話し合い、職員間で意識しながら共有を図っています。さらに、こどもには、事実確認をしながら相互の気持ちになって考えることを促し、円満な解決を働きかけています。そのほか、保護者や学校とも情報共有を図り、問題解決に向かって取り組んでいます。			

	サブカテゴリー6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5／5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている			
評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている		○非該当
サブカテゴリー6の講評			
各マニュアルは、レインボーファイルにまとめ、職員はいつでも確認することができます 新BOP全体のマニュアルは、世田谷区の児童課で作成し、業務手順を明確にするとともに、整備しています。また、世田谷区放課後児童健全育成事業の運営方針や新BOP安全マニュアルを含む各マニュアルは、レインボーファイルにまとめ、事務所に設置しています。新しく入職した職員や、業務に関して分からないことが起きた際は、職員のだれもが、マニュアルをいつでも確認することができます。また、児童課からマニュアルの改定や変更の通知がある際は、差し替えや更新をし、職員に周知を図り共有し、業務の標準化に取り組んでいます。 提供しているサービスの基本事項を確認し、業務の一定の水準化を目指しています 学童クラブで提供しているサービスの基本事項や手順などは、世田谷区の児童課で管理し、改変をおこなっています。放課後健全育成事業の運営方針など新たに作成した内容を確認しています。学童クラブでは、世田谷区の児童課が策定した、新BOP運営基準に記載している、事業運営、活動内容の設定、間食の取扱い、配慮児の受け入れ、保護者との連携、関係機関との連携などに沿い、職員のだれもが一定の水準化を図り、業務の遂行に取り組んでいます。そのほか、運営方針の見直しは、区が定期的におこなっています。 学童クラブでは、職員の業務に対する意識向上を高め、サービスの向上を目指しています 学童クラブでは、世田谷区が管理している、デリバリー弁当事業を2024年度の夏休みから取り入れ、保護者の負担軽減をおこなっています。また、学童クラブでは、こどもに関わる業務の知識が多岐にわたることを考慮し、職員の知識や経験、モチベーションなどをミーティングで話し合いながら、目指すべき目標に向かって取り組んでいます。さらに、こどもに携わる専門職としての意識を高め、職員間のチームワークの強化、業務の効率化の改善を図り、さらなるサービスの向上を目指しています。			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4	
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 26 / 29
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している	評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している ○ 非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している ○ 非該当
●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している ○ 非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している ○ 非該当
評価項目1の講評	
職員は、こどもの現状の姿を把握し、一人ひとりに合わせた援助に取り組んでいます 職員は、入会申請書や児童票の内容を把握し、育成状況の配慮事項や個人面談を通して、こどもの姿や日常の様子から気になることを職員間で共有し、こどもに合わせた援助に取り組んでいます。また、聞き取り面談票、必要に応じて作成する支援シート、日誌、年度末に記入する育成記録なども参考にして援助しています。職員は、こどもが互いの違いなどを認め、協力し合えるように、こども同士で気持ちを話し合い、尊重し合えるように関わるとともに、仲良く一緒に遊ぶよう促し、ともだちへの温かい声かけなど、職員が見本となるよう心がけています。 こども同士のトラブルには、適切な対応を心がけ、こどもの成長につなげています 発達の過程で生じるこども同士のトラブルには、こどもの気持ちを丁寧に聞き取りながら、トラブルの原因と対応方法を話し合い、それぞれのこどもの成長につなげています。また、当事者だけではなく、側で見ていたこどもからも聞き取りをおこない、解決方法などをフィードバックしながら、こども同士でも解決できるよう働きかけています。職員は、こどもの気持ちを傾聴していき、共感することを心がけ、正確な情報の把握をおこない、正しいと思うことは、こどもに分かりやすく伝え、解決に向けた話し合いの場になるように取り組んでいます。 特別な配慮が必要なこどもが、成長できる環境を整え、専門機関と連携しています 特別な配慮が必要なこどもが、学童クラブの生活のなかで成長できるように、こどもの特性や個性をほかのこどもにも伝えながら、互いに、良いところを共有し助け合えるように、職員がこどもの見本となって取り組んでいます。また、特別な配慮が必要なこどもと、ほかのこどもが同じ場所で過ごしていくために、関係機関からの巡回訪問機会を設け、こどもに関する相談や、助言を活かしながら対応に取り組んでいます。そのほか、児童課主催の要配慮児童研修に参加、研修で学んだことを、研修報告として職員に周知、共有を図っています。	
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している	評点(〇〇〇)
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している ○ 非該当
●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している ○ 非該当
●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している ○ 非該当
評価項目2の講評	
学童クラブでは、限られたスペースを工夫し、遊びが展開できる環境を整えています 学童クラブでは、こどもの自主性、自発性を尊重し、こどもの発達に合う遊びと生活が過ごせるよう、限られたスペースのなかで工夫をしながら、遊びが展開できる環境を整えています。こどもが制作をしたい時は、「にこにこの部屋」で自由に作品作りを楽しんでいます。イベントを実施する際は、「ぼんぼこの部屋」の奥や体育館、算数教室などを活用しています。勉強スペースは、和室や算数教室を使用し、自由遊びでは、校庭や体育館などを利用しています。また、児童課主催の遊びに関する研修で学んだ内容を、職場内研修を設け、共有を図る予定です。 こどもが自ら集団活動に参加できるよう、意見が言いやすい関係作りを心がけています 職員は、こどもが自ら集団活動に参加できるよう、常にこどもと同じ目線で、思いや意見が言いやすい関係作りを心がけています。また、こどもの提案を取り入れる際は、職員から提案するのではなく、何がしたいのか目的を把握し、目的に向かっていくには、何が必要かなど、対話することを大切にしていき、こどもの自発性を伸ばすように働きかけています。学童クラブでは、BOPのこどもとともに、自由な遊び場の充実を図り、遊びの選択ができる環境を整えていき、集団活動が苦手なこどもに対しても、声をかけ参加を促し、楽しめる遊びを提供しています。 職員は、基本的な生活習慣が習得できる環境を整え、身につくように声かけをしています こどもが自主的に基本的な生活習慣を習得できるように、学童クラブでは、生活面など身の回りのことを自分で、できるように声をかけ、おやつや時間の時間や、帰り時間の把握などの生活の流れが身につくように見守っています。1年生の入会時には、1日の流れを掲示し、トイレや部屋の使い方など、身につくまで丁寧に繰り返し説明をおこなっています。また、手洗いや玩具、本の整理整頓などこどもが理解しやすいようにイラストで掲示し、命令形の言葉ではなく生活習慣を身につけることの気持ち良さをコメントで入れるなど、こどもが意識できるようにしています。	

3	評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している			評点(〇〇〇)
	評価	標準項目		
	☒ あり ☐ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている		☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		☐ 非該当
評価項目3の講評				
イベント活動では、メリハリをつけ興味、関心が持てるように工夫をおこなっています 学童クラブでは、BOPだよりやポスターを掲示して、行事に対して、興味、関心が持てるように働きかけています。また、こどもが行事に参加したくなるように見本の用意をし、行事の内容によっては、手伝いを募集するなど、積極的な参加ができる環境を整えています。年間を通して、前期は手作りのイベントを中心に開催しています。こどもの興味や手先の発達に合わせ、最後まで作りあげ達成感が味わえるようにしています。また、後期は、身体を動かす集団遊びを取り入れるなど、イベント活動にメリハリをつけ、楽しめる環境を整えています。 イベント活動では、こども同士が意見を出し合いながら、企画や運営に取り組んでいます 学童クラブでは、毎年恒例のイベント「ぼんぼこフェスティバル」を開催しています。イベントでは、各コーナーに分かれ、魚釣り、ペットボトルボウリングなど、こども同士が意見を出し合いながら企画や運営に取り組んでいます。気の合うともだちと、店員になり、ゲームのルールをこども同士で考え、説明するなど、役割分担をしながら、積極的に参加し、責任感を身につけています。また、ともだちや職員の前で司会をするなど貴重な体験をしています。イベントに参加が難しいこどもには、落ち着ける場所を設けるなど、こどもに合わせた活動にしています。 職員は、行事に取り組んでいるこどもの様子を保護者に伝え、共有を図っています 学童クラブの職員は、行事に取り組んでいるこどもの様子を、学童クラブ便りや、新BOPだよりでの発信に取り組んでいます。また、お迎えに来た保護者には、こどもの取り組んでいる様子や、成長を伝え、保護者と共有を図っています。イベントを発信する際は、保護者に分かりやすく丁寧な案内を作成し、疑問点に応えられるよう事前に職員間での共有に努めています。そのほか、2025年度は、児童館のお祭りへの参加を予定しており、保護者への周知と協力体制を整えたいと検討しています。				
4	評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている			評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目		
	☒ あり ☐ なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している		☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している		☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している		☐ 非該当	
評価項目4の講評				
職員は、児童が自ら進んで学童クラブに通えるよう環境を整え、信頼関係を築いています 職員は、児童が来所した際は、挨拶を交わし明るくこどもを受け止める雰囲気作りを心がけています。また、こどもの話を丁寧に聞き、遊ぶ場所を自ら選択できるように環境を整え、困りごとが伝えられるよう信頼関係を築いています。学童クラブでは「放課後児童システム」を用いて出欠席の把握をしています。欠席や気になるこどもに対しては、個別に電話連絡をし、状況の把握や援助方法を思案しています。保護者とは、相互理解を図るため、こどもの様子や状況の把握に努め、トラブルがあった際は、書面ではなく、電話や対面での対応に取り組んでいます。 職員は、こどもに活動の流れが分かるように伝え、見通しが立てられるようにしています 学童クラブでは、勉強時間やおやつの時間を設定し、こどもに活動の流れが分かるように伝え、見通しが立てられるようにしています。また、ホワイトボードに遊ぶ遊具の状況を掲示し、遊びの選択ができるようにしています。学校の長期休業期間は、熱中症や暑さ対策に努め、体育館を使用する際は、温度管理に注意しています。また、長時間過ごすことに配慮し、職員間で一日の活動の話し合いをおこない、午前と午後の活動に変化をつけ、飽きがこない環境と活動内容の工夫に取り組んでいます。 こどもが安心して遊べる環境の工夫に取り組み、新BOPとしての環境を整えています 職員は、こどもが学童クラブで安心して、遊べる環境の工夫に取り組んでいます。また、衛生面にも配慮し、手洗い場やトイレなどを清潔に保っています。室内では、床などで怪我をしないように、必ず上履きを履くように促し、安全管理にも取り組んでいます。さらに、今後は学童クラブでも避難訓練の実施を計画し、災害に向けて取り組んでいます。また、放課後子供教室と一体型の運営をおこなっている学童クラブとBOPは、遊ぶ場所を区別することなく「新BOP」として同じ空間で過ごし、ともに遊べる環境を整えています。				

5	評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている 評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○ 非該当
	●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○ 非該当
	●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○ 非該当
	評価項目5の講評 小学校の副校長や担任教諭と、情報を共有し、災害時でも連携体制を整えています 学童クラブでは、こどもが円滑に過ごせるように、新1年生の担任教諭とは、入学時から連携を図り、情報共有に努めています。また、特別な配慮が必要とするこどもの情報やトラブルの件に関しても、小学校との連携に努めています。小学校の副校長とは、日々の新BOP運営に関することを確認し、連携を図っています。小学校から学童クラブまでの経路は、同じ建物内にあり、安全に通うことができます。災害や緊急の際の連絡は、インターフォンや電話を使用し、学校の指示に従っています。また、新BOPの安全対策マニュアルは学校にも設置しています。 学童クラブは、小学校との連携を密に図り、こどもへの支援体制を整えています 学童クラブのこどもが、小学校で課題を抱えている場合、こどもの課題を把握し、気持ちに寄り添うことを大切にしています。状況によっては、登校できなくても、放課後は学童で過ごすなど、小学校との連携体制を整え調整に取り組んでいます。また、職員は、公開授業や行事に参加し、こどもの様子を確認するなど、小学校での過ごし方の把握に努め、担任教諭とも連携が図れるように取り組んでいます。そのほか、保護者の同意を得るなどして、小学校の担任教諭との面談の機会を設け、こどもの支援内容について話し合っています。 学童クラブでは、各関係機関と連携を図り、保護者と支援について話し合っています 特別な配慮を必要とするこどもについては、保護者や学校と連携を図るほか、各関係機関との連携にも取り組んでいます。学童クラブでは、年に1度、巡回訪問の機会を設け、世田谷区発達障害相談療育センターや児童支援事業所などの関係機関と連携を図っています。また、療育機関とも連携を図り、学童クラブでの様子を見学する機会を設けています。そのほか、各機関と連携を図る際は、保護者に確認を取り、こどもの特性を踏まえた支援について、ともに考えられるよう話し合いに取り組んでいます。		
6	評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している 評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	○ 非該当
	●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○ 非該当
	●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○ 非該当
	評価項目6の講評 おやつの時間が、楽しく落ち着いて食べられる環境作りの工夫に取り組んでいます おやつの時間は、和室の場所で時間を分け提供をおこない、学年の違うこども同士が、楽しく落ち着いて食べられる環境作りの工夫に取り組んでいます。また、おやつの時間を「わくわくタイム」と呼び名をつけ、学童クラブの生活のなかでも、楽しみの時間となるようにしています。おやつは、世田谷区が一括購入し、学童クラブに提供する仕組みになっています。おやつのメニューに関して、こどもからのリクエストなどは、世田谷区の児童課に提案をおこない、意見が反映できるように取り組んでいます。 おやつは、こどもの帰宅時間に合わせた提供や、アレルギー提供にも配慮しています 学童クラブでは、こどもの帰る時間を考慮して、おやつの提供を15時から始め、夕食の時間には影響しないよう配慮しています。また、土曜に来所する際は、保護者が準備したおやつを持参しています。アレルギー対応のこどもに提供する原材料表のチェックは、保護者にもお願いしています。おやつを食べる際は、アレルギー専用の場所を用意し、ほかのこどもには、一緒に食べる時の注意点として、おやつの交換はしない、こぼさないなどを伝えています。おやつの準備は職員がおこない、果物提供の際は、手袋を着用するなど衛生管理に努めています。 アレルギー児への提供の際は、安全面での配慮に留意し、研修にも取り組んでいます 入会の際にはアレルギー調査票の内容を把握し、アレルギー除去のおやつの提供をおこなっています。提供の際はチェックをおこない、食した後のおやつの袋を保管するなど、万が一のための対策を整えています。また、「食物アレルギー緊急時対応マニュアル」の手引きを活用して非常時に備えています。おやつは、名前と除去する食材を記載したトレイで提供をおこない、ほかのこどもと区別するなど、安全面に配慮しています。そのほか、世田谷区の看護師による研修を実施し、アドレナリン自己注射の使用方法やアレルギー緊急時対応について学んでいます。		

7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	☐ 非該当
評価項目7の講評			
職員は、怪我や事故予防の対策に取り組み、こどもに分かりやすく伝えています 職員は、こども自身が体調不良を感じた時や、怪我をした時は、職員に症状を伝えられるよう声かけをおこなっています。不意な事故が予測される遊びをする際は、事前にこどもたちを集め、怪我や事故がないように注意事項を分かりやすく伝えています。また、こどもが少なくなる夕方は、室内を走らないなどの注意喚起の掲示もしています。事故や怪我などが発生した際は、職員が携帯しているトランシーバーを活用し、情報を共有しながら迅速な対応に取り組んでいます。そのほか、職員は、世田谷区の看護師による緊急対応を学び、役割分担に努めています。 学童クラブでは、こどもの健康維持のため、感染症対策に取り組み予防に努めています 学童クラブでは、感染症対策のため、換気をこまめにおこない、清掃や消毒を徹底し、予防に努めています。こどもには、外から帰ってきた時やおやつ前の手洗いの大切さを伝え、職員は、こどもの健康維持のため、継続した声かけをおこなっています。また、日常の怪我などに対して、こどものかかりつけ医を確認し、必要に応じて連携をとるなどの体制を整えています。そのほか、医療的ケアが必要なこどもの入所の要望があった際は、保護者と関係医療機関と連携を図り、学童クラブ内での受け入れ体制を整えています。			
8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている 評点(〇〇〇〇●)		
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	☐ 非該当
	☐ あり ☒ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	☐ 非該当
	評価項目8の講評		
職員は、保護者の事情に合わせた支援や、学童クラブの情報発信に取り組んでいます 学童クラブでは、保護者の家庭の事情や就労状況を把握するために、1年生は全員、2・3年生は、任意で個人面談をおこなっています。面談では、保護者の気持ちを受け止め、個々の事情に配慮した支援に努めています。また、学童クラブの方から、必要に応じて保護者に個別で声をかけ、こどもの様子や、家庭状況などを把握し、適切な支援に取り組んでいます。そのほか、保護者には、放課後児童システムを通じたメールや、新BOPだより・学童クラブ便りを配布し、学童クラブに関する情報発信に取り組んでいます。 学童クラブでは、保護者とこどもの様子を共有し、信頼関係の構築に取り組んでいます 学童クラブでは、保護者のお迎えがある際、意識的にこどもの様子を伝え、トラブルや気になることが発生した際は、迅速に対応し、信頼関係の構築に取り組んでいます。また、職員は、学童クラブ便りを活用し、こどもの活動の様子や、面談で得られた保護者の悩みごとに関するワンポイントアドバイスなどを記載し、子育て支援にも取り組んでいます。さらに、学童クラブでのルールや変更点などを記載し、保護者に必要な情報を発信しています。そのほか、小学校の広報誌に職員紹介を載せるなど、職員周知にも取り組んでいます。 職員は、こどもの安全のために、学童クラブへの出欠管理を徹底して取り組んでいます 学童クラブでは、放課後児童システムを活用し、出欠の把握、管理をおこなっています。また、学童クラブのこどもが、出席予定で来所していない場合には、保護者に連絡をおこなっています。また、放課後児童システムの未入力や変更がある際は、保護者に電話での確認を必ずおこない、こどもの安全の確保のために学童クラブへの出欠管理を徹底して取り組んでいます。学童クラブは、BOP登録のこどもも、多数在籍していることを考慮し、出欠の確認や、下校時には確実に帰すように職員間で連携を図っています。			

9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている 評点(●●)	
	評価	標準項目
	☐ あり ☒ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している ☐ 非該当
☐ あり ☒ なし	2. 学童クラブの行事に地域の人参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している ☐ 非該当	
評価項目9の講評		
移動児童館を活用し、児童館の職員と学童クラブが交流できる機会を検討しています 新BOP運営の学童クラブの管轄が世田谷区の児童課にあるため、施設外への活動に関して制限があり、活動をおこなう際は、申請の事務手続きを要します。今後は、BOP連携の事業のひとつとして、移動児童館を活用し、児童館の職員が、学童クラブのこどもと、工作やスポーツなどの遊びを企画し、交流できる機会を設けることを検討しています。 新BOP主催の行事に、さまざまな人を招待し、関わる機会を設けたいと思案しています 小学校のPTAが主催する、「みなみまつり」の行事に職員が引率して、参加しています。こどもたちは、出店の手伝いなどをして、お祭りの雰囲気を楽しんでいます。今後は、新BOPが主催する「ぼんぼこフェスティバル」に地域の方や、小学校の関係者を招待し、こどもたちが、さまざまな人と関われる機会を設けたいと思案しています。		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	1-1-2	経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている
タイトル①	新体制により職員間の連携強化と業務改善を推進し、新たな基盤作りに努めています	
内容①	2024年度に就任した事務局長と児童館長は連携を強化し、新しいBOP運営体制の確立に積極的に取り組んでいます。職員会議や定期的なコミュニケーションを通じて、職員間の情報共有を徹底し、共通の理解を深めることで、日々の業務改善に繋がっています。職員一人ひとりの意見や気づきを取り入れながら、より良い職場環境の基盤の構築に努めています。また、レインボーファイルやチェックリストなどを活用して職員の意識を統一する工夫をおこない、チームとしての一体感を高め、安全で安心できる環境の提供に努めています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-6-2	サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている
タイトル②	学童クラブでは、こどもが安心感のなかで輝ける、居場所作りに力を入れています	
内容②	学童クラブでは、小学校という新しい環境への変化にも対応し、学校と家庭までの時間が安心な居場所となるよう、こどもと丁寧に関わることを心がけています。職員は、学童クラブの場がこどもにとって自分らしく居られ、ともだちとさまざまな遊びや、学びの体験ができることを目指しています。また、こども同士自分の思いを主張し、相手の痛みを理解しながら、こどもが安心感のなかで輝ける居場所作りに力をいれています。さらに、楽しさのなかから、けじめやルールを学ぶ機会を設けるなど、教育ではなく、生活の場としての学童クラブを目指しています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル③	保護者とは信頼関係を築き、ともに、こどもを共育していくことに力をいれています	
内容③	学童クラブの職員は、こどもの遊びや生活の様子を保護者に伝え、家庭での様子も聞き取るなど、こどもの状況について共有しています。また、家庭とは異なる集団でのこどもの様子を分かりやすく丁寧に伝えていくことに努めています。学童クラブの育成支援を通じて、保護者と信頼関係を築き、相談しやすい雰囲気作りにも取り組んでいます。保護者から相談がある際は、子育て観や気持ちに寄り添いながら対応をおこない、保護者とともに、こどもを共育していくことに力をいれています。そのほか、必要に応じて学校や関係機関との連携にも取り組んでいます。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	事業所では運営規約の整備に加え、職員の創意工夫を尊重し主体性を発揮できる職場環境の構築に努めています
	内容	事業所では運営規約を整備し、職員全員が規定にもとづいて業務を遂行する環境を整えています。この規約の存在により一貫した支援を進める一方で、職員が日々の運用で創意工夫や改善をさらに発揮できるよう、規約の活用方法を前向きに見直しています。また、職場でのコミュニケーションや意見交換を大切にすることでチームワークを強化し、働きがいを感じられるよう支援しています。規約にもとづいた運営を確保しつつ、職員が一人ひとり主体性を発揮できる柔軟な環境づくりに努めています。
2	タイトル	学童クラブでは、子どもとの信頼関係を築きながら安心して過ごし、一人ひとりに合った生活や自立心、主体性を育む環境を整えています
	内容	学童クラブでは、子どもが自分の気持ちを素直に表現し、安心して伸び伸びと過ごせる環境を整えています。職員は、子どもの気持ちや体調の変化にも目を配り、丁寧に汲み取ることを大切に、上から指導するのではなく、子どもと同じ目線で、どの子どもにも寄り添いながら関わることを心がけています。また、子どもと職員は、日々の関わりを通して、互いの信頼関係を構築しています。さらに、学童クラブでは、学校や家庭では得られない体験や経験を積み重ねて、子ども一人ひとりに合った生活を基盤に、自立心や主体性を育む環境を整えています。
3	タイトル	学童クラブは、子ども同士が集団遊びを通して人間関係を学ぶ場となり、職員は、子どもが主体的に決定できるよう関わっています
	内容	学童クラブは、BOPの子どもを含む多くの子どもたちが利用しており、同学年や異学年が交流できる環境が整っています。集団遊びを通して、交友関係の輪が広がり、上の学年の子どもに憧れる気持ちや、下の学年の子どもを思いやる心が育まれ、人間関係を学ぶ場となっています。職員は、学童クラブでの子どもの失敗を、成長や学びに変えられるよう、子どもに合わせたフォローに取り組んでいます。また、さまざまな場面で、子ども自ら気がつき考える力や、見通しを持った行動につなげ、最終的には、子どもが主体的に決定できるよう関わっています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	倫理観の共有と職員のスキル向上による業務効率化を進めるとともに、職員一人ひとりの成長を支援する取り組みに期待します
	内容	日々の業務において必要な倫理観や配慮を身につけ、共通の価値観を深めるために、職場では積極的な声かけや情報の共有を重視しています。また、日々の業務における効率化に努め、職員がそれぞれの業務を的確に遂行し空き時間を他の業務や自己研鑽に使えるよう取り組んでいます。今後はマニュアルの見直しや現場での効果的な活用方法を模索し、振り返りの場を設けることで、職員のスキルアップや育成を促進し、職員一人ひとりの成長を支援する取り組みに期待します。
2	タイトル	プレイングパートナーの増員や常勤職員確保に加え、職員の意識を高めるとともにチームとしての協力体制の構築に期待します
	内容	安定した業務の遂行と指導体制の充実を目指し、プレイングパートナーの増員を検討しています。今後に向けて、大学への直接求人や、区と協力して配置計画や指数の見直しを検討するなど、人員体制の強化に向け取り組む予定があります。また、常勤職員の確保も優先課題とし、現場での安定した人員配置に努めていますが、世田谷区で最も多い児童数を限られた人数の指導員で支援するため、職員一人ひとりの意識を高めるとともに、チームとしての協力体制の構築に期待します。
3	タイトル	学童クラブでは、児童の遊びの幅が広がる環境の改善を図り、四季を感じながら、伝承遊びを楽しむ環境を整えたいと検討しています
	内容	学童クラブでは、子どもが生活と遊びを楽しむ場となる育成支援に取り組んでいます。職員は、子どものやりたいことや意見が反映できるツールを設置し、さらなる遊びの幅が広がる環境の改善を検討しています。また、児童に遊びの提案ができる、レベルアップを目指しています。また、新たな遊びとして、日本の伝承遊びを取り入れ、人と人との触れ合いを楽しむ機会を、設けることを思案しています。今後は、小学校の行事に合わせて、伝統行事の意味を伝えていき、日本の四季を身近に感じながら、伝承遊びを楽しむ環境を整えたいと検討しています。